

日工販ニュース Vol.21 No.06



巻 頭 言 「モノづくり立国」日本	日工販理事 加藤 斉	2
メーカーインタビュー	(株) ミットヨ	4
私の読書評 「無趣味のすすめ」	植田機械(株) 住吉 輝雄	7
リレー随筆 「戦国の天才『織田信長』」	ヤマザキマザック(株) 大鹿 真裕	8
工作機械と私	下野機械(株) 児玉 弘	9
議 事 録 「政策」「理事会」		10
甘 口 辛 口	サンコー商事(株) 柴山 勉	14
統 計 資 料 「FA流通動態調査1」「業種別受注額」「マシニングセンタ・NC旋盤動向」...		15
S E 教 育 「合格者」		18
消 息 ・ 行 事		18
会 員 会 社		20

SE資格者にご回覧下さるようお願いします。

「モノづくり立国」日本




日工販理事

加藤 斉

(三立興産(株) 代表取締役社長)

米国のサブプライムローン問題は世界を巻き込んだ未曾有の金融危機へ発展し、さらに2008年9月のリーマン・ショック以降は、金融危機が深刻になり、欧州にもその影響が波及しました。日経平均株価も26年ぶりの安値を更新し、百年に一度といわれる世界同時不況は昨秋までフル生産に沸いていた「モノづくり」現場を一変させてしまいました。「モノづくり」にたずさわる私たちも大きなダメージをこうむっています。特に輸出主導の自動車産業、建設機械産業は裾野が広いだけに大きなショックを受けています。そこに円高、原油・材料の高騰などが重なり痛手が倍増しています。

振り返ってみると、1973年オイルショックの当時、日本の輸入金額の中で40パーセント近くが原油で占められていました。日本の企業経営者たちの全員が打ちのめされ、誰一人自信を持たない状態に落ち込みました。しかし、その後日本の経営者たちは全力をあげて技術革新に取り組み、その結果日本はあっという間に世界で最も高い技術水準を身につけた工業国になりました。



日本は現在世界一の高い技術水準を保持し、特許という形で商品化しています。この技術貿易の黒字は年々拡大しています。その理由の一つとして一般に言う重厚長大産業であったと思われます。各種の機械工業を次々に創設、成長させました。今日では世界最大の機械工業を保有する工業国になっています。また、工作機械工業も拡張し今では世界最大の工作機械生産国となっています。世界全体の工作機械の市場有占率が27パーセントで3台に1台は日本の工作機械が使用されています。

最近は少し明るい話題がありますが、新聞、雑誌、ニュースなどを見ても、まだまだ暗い話が多いように思われます。私の見解といたしましては、世界の人々が豊かな生活を求めていく中において、まずはインフラを整えることから始めなくてはなりません。そこには建設機械、大型トラックが必要になってきます。道路が整備されれば最初に自転車、次にオートバイ、三輪車最後には四輪車と変化していきます。そこには工作機械が必要です。日本は「モノづくり」技術工業国です。世界中みてもこのような国はありません。

ここで少し日本が世界をリードしている得意分野をご紹介します。

- ・自動車・オートバイ —————→ 燃費・性能・環境ハイブリット車
- ・建設機械 —————→ 世界一の耐久性
- ・工作機械 —————→ 生産設備
- ・環境保全産業 —————→ 消費電力製品、ハイブリット製品
- ・原子力発電所 —————→ 溶接技術
- ・高層ビル建築技術 —————→ 鉄骨を使わない超高層ビル建設

以上のようなことを思いますと「モノづくり」日本の景気回復は思っているより早まる可能性が高いのではないかと期待しています。

メーカーインタビュー 第5回

メーカーに聴く プロのこだわり!



(株)ミットヨ (本社・神奈川県川崎市)

精密測定機器のパイオニアとして、
常に新たなニーズへ応える技術開発に挑戦。

「メーカーインタビュー」第5回は、神奈川県川崎市に本社を置く「精密測定機器の総合メーカー」株式会社ミットヨ。1934年(昭和9年)にマイクロメータ国産化のための研究所を創設して以来、“測る”というモノづくりに欠かせないマザーテクノロジー(基盤技術)の担い手として精密測定機器の歴史をリードしてきた。現在、国内はもちろん、世界的にもトップレベルの地位を築いている同社の技術開発と製品開発、産業社会への貢献などについて、営業本部営業技術部部長の坂田幸寛氏に伺った。



営業本部営業技術部部長 坂田幸寛氏

●5000種類におよぶ製品・機器

同社の歴史は、今から75年前の1934年(昭和9年)、マイクロメータの国産化を目指して研究所を創設したのに始まる。36年に東京・蒲田に工場を建設するとともに社名を三豊製作所とし、37年にマイクロメータの国産化に成功した。マイクロメータは「長さ」を測る測定器で、「測定」はすべてのモノづくりの基本となる。「明治以来、日本の工業は飛躍的に進歩しましたが、製品の長さなどを測る測定器は輸入品に頼っていて国産品はありませんでした。昭和の初めに国内でも開発研究がなされるようになりましたが、当社の創設者である沼田恵範は“日本の産業界をお助けする”との思いからマイクロメータに取り組んだのです」と坂田さんは語る。

同社はその後、精密測定技術一筋に取り組んでいく。1942年に長さの基準となるゲージブロックを試作(67年にゲージブロック標準セットを生産開始)、49年にノギスを生産開始(60年に大型ノギスを生産開始)、57年に投影検査機を生産開始、59年に工具顕微鏡を生産開始、69年に立体を測る三次元測定機を生産開始。71年にカウンタ付外側マイクロメータや輪郭形状測定機「コントレーサー」を開発した。

さらに技術の大きな進歩とともに84年に光学顕微鏡FSシリーズを開発、87年には計測データネット



マイクロメータ(MDE-25MJ)

ワークシステム「 μ -net」の生産を開始、94年には非接触三次元CNC画像測定機「クイックビジョンシリーズ」の開発生産を開始。96年に多関節三次元デジタイザ「スピンアーム」を商品化し、2002年には世界最大級の門移動型CNC三次元測定機シリーズを開発。2004年には世界最高精度の測定顕微鏡「Hyper MF/MF-U」（最小表示分解能 $0.01\mu\text{m}$ ）を発売した。この歴史は、まさに日本の計測技術の歴史でもある。

「当社には現在、マイクロメータやノギスをはじめ、内径測定器、形状測定機、座標測定機、測定顕微鏡、画像測定機などに加え、素材の硬さを測る硬さ試験機や振動計測機器、地震観測機器なども揃え、商品は5000種類に及びます。これも、お客様からのあらゆる測定ニーズに一つ一つお応えてきた結果です」と語る。



高精度三次元測定機 (LEGEX 774)

●最新の技術を取り入れ、ナノテクノロジーに挑む

このような製品開発の歴史を築いてきたことについて「創業当初から未知の技術領域にも果敢に挑戦してきたことが上げられます」と語る。「例えば、当社本来の計測技術を基盤に、機械・電子・光学・コンピュータ・制御技術などのベーシックテクノロジーを融合させることで高精度の計測技術を追求してきました。これに加えて、素材部品からの品質にこだわり、社内での一貫生産体制で商品を生み出していることもお客様の信頼獲得につながっていると思います」とのこと。「近年、工作機械の高精度・高精密化に伴って、より高度な測定精度が求められていますが、測定顕微鏡や画像測定機などを通じてナノテクノロジー時代の要請に応えています」と語る。

高精度への要求に合わせて、使いやすさを高めるデジタル化への要請にも応えてきた。1つは「デジタル表示」だ。「マイクロメータにしても、従来は「目盛りを読む」測定でしたが、今はデジタル化による「見る測定」へと進化しています。当社は早くからこのデジタル表示に取り組み、1971年発売のカウンタ付外側マイクロメータはデジタル表示のさきがけというべき商品でした。さらに81年には1000分の1mm単位の液晶表示式マイクロメータを発売しました」とのことだ。

もう1つのデジタル化は「デジタル出力」で、同社はこれにも先鞭をつけている。「大規模工場では計測データをコンピュータに入力して総合管理し、品質管理や生産管理に用いていました。そこで、マイクロメータから測定データが直接出力されれば、そのまま総合システムにつながるわけです。そういう機能を持つマイクロメータは、計測機器であるとともに「情報機器」でもあるといえます」。1987年にコンピュータと連動させる計測データネットワークシステム「 μ -net」の生産を始めたが、今はこのデータ処理用ソフトウェア開発も同社の重要な分野となっている。

これらの進歩の背景として特筆すべきことは、国家標準のトレーサビリティ（校正）への体制作りだろう。「当社は1944年に宮崎工場がゲージブロックの認定事業者になり、つくばキャリブレーションセンターが長さ測定用レーザーの認定事業者になっていますが、これは当社が国家標準の測定能力を持つと認められた証でもあります。以降、国際規格で認定される校正機関を社内に設置する努力を続け、トレーサビリティ体系を整備してきました」と説明する。現在、日本国内で6ヵ所、海外で21ヵ所の事業所がそれぞれの国の認定機関から認定校正機関として承認されている。

●精密測定の世界に“国境”はない

同社の売上高や従業員数の国内と海外の比率は、ほぼ半々と拮抗している。「計測にはそもそも、国際標準と同等レベルの正確さと信頼性が求められます。ですから、精密測定機器の世界に国境はないというのが我々の認識です。当社は創立以来、グローバルな視点に立ち、世界中のお客様にご満足いただける商品とソリューションを提供できる体制を築いてきました」というように、国内外に充実したネットワーク網が張り巡らされている。

まず、国内では「全国各地に販売センタとサービスセンタを網羅しているほか、ユーザーの課題解決を提案するM3 Solution Centerを7カ所に展開しています。生産拠点は10製造部（工場）があります」。また海外では「1963年（昭和38年）に米国への進出拠点としてイリノイ州に販売会社MT社を設立以来、全世界にマーケットを拡大してきており、現在は26カ国に58カ所の研究開発・製造・販売・技術サービス拠点、80数カ国に代理店網があります」とのことだ。

一方、ユーザー企業の人材育成を支援するために「ミットヨ計測学院」を設置し、総合社員教育および精密計測技術の研修を行っている。また、ミットヨ創業の理念などを示す資料や測定機器の数々を展示する「沼田記念館」、世界の精密測定機器のルーツと変遷を紹介する「ミットヨ博物館」などは、計測の歴史を学ぶ上で貴重な存在であろう。

●測定の原理原則へ回帰

計測の技術や機器はどんどん進化し、使う側のニーズもさらに多様化・高度化している。「ミットヨ」の今後に期待される面は大きいと思われるが、今後について「測定の原理原則への回帰を忘れてはならないと思います」ときっぱり。「大企業や中堅企業は計測機器から得られるデータを一元管理し、トータルな生産システムとしています。しかし一方、製造業の多数を占める中小規模の企業では、マイクロメータなど単体の機器をいかに有効に活用していくかが重要です。つまり、使いやすさ・耐久性・経済性ですね。当社としては、こうしたニーズに確実に応えていかなければなりません。それにはまず、使う人の立場に立って商品・技術を考える“心”が原点だと思っています」とのことだ。



本社工舎

同社は社是として『良い環境、良い人間、良い技術』、社訓として『誠実、深慮、敢闘』を掲げているが、「モノをつくる前に人をつくるのが大切で、人としてのバランスを備えた社員を育成することを目指しています。一方、余人に代えがたい技術・技能を持つ社員も少なくありませんので、そうした社員を『師匠』に任命し、固有技術や技能を次世代に伝えていくことも重視しています」とのこと。「こうした人材育成と技術・技能の伝承のもとに、お客様に信頼される商品を提供していきたいと考えます」と結んだ。

無趣味のすすめ

村上 龍 著 (幻冬舎)



植田機械(株)

住 吉 輝 雄

この本を購入したキッカケは、サブタイトルが大転換期を生きる人の必携や表題が「無趣味のすすめ」と通例から逆行していることも興味を持ったひとつであったが本屋さんで今一番売れている本というポップに釣られてしまったことであった。

38のテーマ集からなる本作品は、表題作テーマから始まり、「趣味の世界には、自分を脅かすものがない代わりに、人生を揺るがすような出会いも発見もない。心を震わせ、精神をエクスパンドするような、失望も歓喜も興奮もない。真の達成感や充実感は、多大なコストとリスクと危機感を伴った作業の中にあり、常に失意や絶望と隣り合わせに存在している。つまり、それらはわたしたちの「仕事」の中にしかない。」と少し刺激的な書き出しから始まっており、この文節だけ読むと趣味に対して否定的にも感じ取れる。趣味が息抜きであるのはもっともであるが趣味の中にも作り上げた達成感、大物の魚を釣り上げたなど、仕事以外に喜びなどを感じられる部分があるとは思えるのだが…

メモを取る行為については、「メモを取らなければいけないほど重要な情報に常に飢えているかどうか」と書かれており、情報を欲する意欲を持たなければいけないと常日頃感じている部分であった。

「ビジネスと読書」の中に「わたしたちは必要な情報を得るために本を読むのだ。自分は今どんな情報に飢えているのか、それがわかれば目標は八割達成されたも同然だろう。だから、どんな本を読めばいいでしょうか、と他人に聞くような人は最初から可能性がない。読書が重要なのではない。情報に飢えるということが重要なのだ。」という一節も自主性の中に価値があり、強要されてするものではないというのはまさにその通りであると感じた。

「オーラの正体」というテーマの中に「その人物に関する物語性を伴った情報がその人物のオーラを形作る。物語性を伴った情報のうち、特に上質で希少性の高いものが「伝説」と呼ばれる。」漠然と感じていたことであったが、自分自身が相手の情報を得て作り上げていたことを気付かされた一節であった。

話題は多岐にわたっている。趣味とは何か、オーラとはどういうものか、どんなファッションで臨むか、接待はどうあるべきか。仕事上で直面しそうな、さまざまな箴言集が収められている。

それについて本書での態度は一貫していると感じる。実は本質に触れていない精神論的な修飾をはず取り、その問題をめぐる現実の構造をあらわにし、時には辛らつに客観視し、本質を追求することを忘れさせない本であった。



リレー随筆



戦国の天才『織田信長』



ヤマザキマザック(株)

(ヤマザキマザックシステムセールス(株))
東日本 FA 技術営業

大鹿 真裕

日工販の会員企業の皆様には、日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして御礼申し上げます。昨年来、非常に厳しい経済状況になり、世の中が閉塞感に満ちております。私は、戦国時代の歴史小説をよく読みその中でも織田信長・豊臣秀吉・徳川家康関連を好んで読みます。現在の状況の中で、強いリーダーシップを求める人々が多くおられ、よく三人の中で『織田信長』を見本とされるものが多く出版されておりますが、私も同様に『信長』のような人物の出現を望みますし、自分自身も『信長』のような思考をしていきたいと常々思っております。

『織田信長』という人物は、合理主義的で柔軟な思考の持ち主であったといわれます。当時の常識を取捨選択し、有用なものは利用し不必要なものは徹底的に排除しております。

経済政策では、関所の廃止・主要都市で楽市楽座を行っております。これは、誰もが自由に経済活動を行えることで活性化を図り、流通のスピードアップを図っております。

現在に照らすと、従来からの大企業の保護ばかりではなく、すべての企業に平等にチャンスを与え、起業家を増やすことが互いに切磋琢磨し人々が生き活きとした世の中となり、景気も良くなるのではないのでしょうか。

軍事に関しては、自軍が弱兵であることを認識し、新兵器である『鉄砲』を大量導入し、『鉄砲』の弱点を克服すべく『三段打ち』という新戦法を編み出しております。また、生涯100回以上の合戦をしておりますが、一度として同じ戦法をしていないといわれております。それは、相手は絶えず研究して、必ず対策を考えて対抗してくることを理解しており、過去の成功に縛られず常に相手の意表をついて戦っております。

現代においても、人間は成功体験を忘れられずどうしても縛られてしまいがちです。『信長』のように過去に縛られず柔軟な発想をして常に新しい試みをもってどのような難局であっても今までと異なった視点で物事を見ることで解決できることがあります、こうすることにより世の中が大きく変化し活性していくのではないのでしょうか。

現在の世の中もスケールは大きく変わりましたが、戦国時代の日本と同様とらえることにより、『織田信長』を一つの見本として、合理的に柔軟な考えを持ち、過去に縛られることなく物事に当たることにより、第二次大戦後の高度成長期のようにすべての人々が、生き活きとして活力のある世の中になっていくのではないかと思います。

現在の我々は、100年に1度(言い換えると過去に経験がない)といわれる経済危機の真只中であります。過去の様々な対策はおそらく通用しないのではないのでしょうか。そうであるならば、『信長』のように、現

工作機械と私



下野機械(株)
浜松営業所取締役所長

児玉 弘

この業界に三十歳で身を置いて二十八年、前回の投稿からも十数年が過ぎようとしています。複合加工機の台頭やMCの高速化など技術的には日進月歩でありチェンジの連続ですが、営業を通して言える事は、変わらぬものもあるという事です。人の輪と進取伝承の姿勢です。

本誌三月号で長尾昌浩氏のエッセイを読ませて頂きました。同氏は私が転職直後何かとお世話になった長瀬鉄工（現ナガセ）長尾部長のご子息。文中で人との縁の大切さを語っておられましたが私も同感です。部長は、畑ちがいの広告業界から転身し右も左も分からぬ私を、自分の息子の様に励まし育ててくれたのだと懐かしく、そして嬉しく思うと同時に人との繋がり・輪を再確認しました。

浜松営業所の主たるユーザーは、金型製造・金属部品加工を手掛ける方々です。入社後しばらくは「親方・職人」と呼ばれる超ベテランの社長や工場長からの「要望」とメーカー側の「提案」を取捨選択しながら、取りつなぎ受注にこぎつける事が、自分の仕事だと思っておりました。

何年か過ぎ、その経営者の方々にとっては、いかに自分達の”腕と技”及び人脈・ノウハウを後継者に伝承していくかが、企業の存続・発展に係る大きな課題となりました。

一方、後継者陣は、更なる飛躍を目指し、目に見えないそれらをデータ化すると共に、自分達が得た新技術や加工法をインプットしコンピュータ化されています。

私は金型工業会浜松部会の若い方々とよく情報交換しますが、彼らの先代もしくは創業者以上の企業に発展させる為の努力には頭が下がります。単に工作機械、金型設計、解析加工技術に対する情報収集だけにとどまらず、例えライバルと思われる同業者間でも良い所は学び、悪い点は互いに指摘し合うといった我々世代では考えられない様な事も、会社の発展の為、積極的に実践されています。

先日、開かれたインターモールドにおいても金型工業会のブースには約四十社の金型メーカーが出展。各ブース内で独自のPR、営業を繰り広げる中、若き後継者の方々の熱意あふれる活躍ぶりが印象的でした。

齢六十まであと数年、そろそろ機械販売においてはベテランと呼ばれる頃かな？と安穩としていた自分ですが、このような活動を垣間見るにつけ、ニューリーダーの面々に置いていかれない様、自分なりのノウハウや多少のスパイスを、提供出来るべく研鑽を続ける事が大切であると、つくづく感じております。

ノ 状を大きく変える強い意志と信念を持ち対応していかなばならないと思います。幕末・明治維新（黒船来航）や、太平洋戦争敗戦（アメリカ進駐・GHQ統治）のように外圧による変化ではなく、戦国時代のように我々日本人の中で独自に変革することはどうしても我々は恐ろしくてできません。しかしながら、400年以上前の日本人にできたことは我々に不可能ではないと考えて、私は、今後世界に冠たる『モノづくり日本』の復活のお手伝いができればと考えて、日々活動していきたいと考えております。

今後とも、Mazakともども宜しく願い申し上げます。

議事録から

第80回 政策委員会

日 時：5月13日(水) 11:00~12:30

場 所：安保ホール(名古屋)202号室

出席者：尾瀬委員長、副会長3名、委員5名、
事務局1名

委員長挨拶：

2年間会長を務め本日が最後の政策委員会となりますが、これまで皆様からいろいろとご協力頂き有難うございました。審議宜しくお願い致します。

議 題：

(1) 総会議案の件

①平成20年度事業報告案と決算案について

専務理事より説明。一般会計では、各支出項目で予算を残し、特に事業補助費は計画通り活動を実施したが予算を残し収支差額はプラスとなった。一方教育事業特別会計は特にSE教育受講生増による受講料収入増によって収入増となり収支差額はプラスとなった。昨年は各地での事業活動を通じて会員への還元としていたが、この状況下会員に対する公平な還元として会費について論議する必要があり理事会にて話し合うことにした。

②平成21年度事業計画案について

例年通りの事業を踏襲しているが、今年は厳しい経済情勢下、重点施策として各地区委員会において特に研修会、製品研修会に対して補助費を増額している。

③平成21年度予算案について

専務理事より予算案について説明。最近の受

講生増により教育事業はここ数年安定しているが、過去の厳しかった時期に一般会計が経費を負担していたこともあり、繰越金の一部を一般会計に繰り入れることにした。一般会計予算としては退会した正会員1社、賛助会員4社の計5社減による会費収入減となり前年度実績比減、支出は各地区研修会での講師費用増により事業補助費が前年度実績比増となるが、総支出は前年度比減となり事業収支差額は若干のプラスなる。教育事業では3月実施したアンケート結果に基づき受講料収入を算出し、事業収支差額はマイナスとなる。

④会長、副会長について

会長には三菱商事テクノス(株)柴田社長にお願いし、副会長は留任願う事で、新理事からも承認を得ておりこの体制で総会に諮ることにする。

⑤会長表彰について

理事、委員の就任期間が10年以上の方々6月10日の総会で表彰される。今回表彰される方々は、井内理事、下野監事、田尻理事そして森田調査広報委員の4名。

(2) 地区行事のすり合わせについて

①東部地区の場合は決算書の見方関連の研修会は既に実施しているので、製品研修会を1日研修として内容を充実させ助成金対象とする。

②中部、西部は決算書の見方関連の研修会を計画して予算を組んでいる。助成金対象となる場合の申請のタイミング、案内時期、講師の都合

など勘案して遅くとも2カ月ほど前には事務局
あて連絡することにする。

(3) 予算及び会費について

尾瀬会長より、21年度予算は旧体制で作成し、
新体制で取り進めて行くという形となるが、これ
だけ世の中が急変している状況下、正会員、賛助
会員に対して何をすべきか、日工販のあり方など

を新体制で見直しが必要と考えると意見があっ
た。会費については時限立法的に下期でどうする
か7月の理事会で議論することにする。

次回委員会：

7月8日(水)

機械工具会館3階

第221回 定例理事会

日 時：5月13日(水) 12:30~15:20

場 所：名古屋/安保ホール 601号室

出席者：尾瀬会長、副会長3名、専務理事、
理事17名、監事2名、事務局1名

会長挨拶：

昨日、日工会の受注速報値が出ましたが前月
比をみると119.9%ですが、1月~4月を見ますと
受注額は190億、204億、209億、210億と少し
ずつ上がっておりいわゆる底を打ったと見えなく
もありません。それにしても前年同月比4月で約
80%ダウン、1月から4月トータルで83%とダウ
ンということでここまで落ちるのかという状況が
続いています。その中で内需の方は4月実績で
見ると下げ止まり感が少しあるとは思われ、1、2、
3月は100億もいかなかったのがやっと122億に
いったということで寂しい数字ではありますが、
そのような事位しか言えない厳しい状況が続い
ております。日工販では1期2年が役員の任期で
すので、本日は現在の理事メンバーでは最後とな
りますが議題もたくさんございますのでよろしく
お願いいたします。来月6月10日に行なわれる
第40回通常総会を中心とした議題になっており
ます。ご審議のほど宜しく願います。

[付議事項]

(1) 総会議案の件

①平成20年度事業報告案と平成20年度決算報 告書案について

I) 平成20年度事業報告案について

専務理事より20年度経済全般状況、工作機
械受注状況と20年度事業活動を説明。会
員数の異動については、平成20年度の正会
員は、独協機械(株)退会、双日マシナリー(株)が
入会し正会員数変わらず72社。メーカー賛助
会員は、野村精機(株)退会・(株)太陽工機入会し
会員数変わらず56社。リース賛助会員は、(株)
芙蓉リース販売(株)退会、協同リース(株)と三井
リース事業(株)が合併しJA三井リース(株)とな
り、2社から1社に減となり17社。

II) 平成20年度決算報告書案について

専務理事より説明。

一般会計決算について：

収入の部、期初に正会員1社が退会しその
後1社入会したので月別会費収入は若干減。
入会金、受取利息金利増、雑収入増により総
収入は微増。支出の部では、人件費関連出
では新人採用、引継ぎなどの期初計画との

差異により支出減となった。事業補助費も予算を残しており事業収支差額はプラスとなり、次期繰越金は増加した。

教育事業特別会計決算について：

収入の部で、SE 講座受講生の大幅に増加により収入増となった。支出の部では人件費関連は一般会計同様の理由で減っている。教育事業費では、受講生数増による会場費増、基礎講座の実習材料費値上がりにより教材費増。尚SE 講座、更新研修の教材費は印刷機導入により外注から内製に移行しつつあるのでその効果が出て予算を残している。収支差額はプラスとなり、次期繰越金は増加した。審議の結果了承を得たので来月の通常総会に諮り承認を得ることになる。

②平成21年度事業計画案について

専務理事より説明。事業計画案は既に前回の理事会で承認を得ている。特に各地区委員会では、この不況下、会員の研修会・製品研修会に力点を置き、講師費用増による補助費増となる。来月の通常総会に諮り承認を得ることになる。

③平成21年度予算案について

専務理事より説明。

一般会計予算案：

収入について、4月より正会員1社、賛助会員4社が退会した。これら5社減のベースで収入を設定。教育事業局からの繰入金について説明。公認会計士と監査時に打ち合わせの結果、教育事業特別会計定期預金分の一部を一般会計へ繰入れることにした。当初教育事業は赤字の時期があり一般会計から経費負担をしていた経緯もあり、教育事業も安定してきたので一

般会計に繰戻すことにした。支出については、給与手当など人件費関連は、前年度と比べ人数減のため前年度比予算減少。事業補助費は前年度実績に比べ各地区の研修会費用増などがあり若干の増。事業収支差額はプラスとなる。

教育事業特別会計予算案：

3月実施のアンケート調査結果に基づき受講料収入を算出し、収入総額は前年度実績に比べ大幅な減。教育事業費については受講生減により会場費が若干減、SE 講座の通信印刷費が前年度より増えているが外注する通信講座テキストを内製化のためのデジタル化を進めると共にテキスト内容の大幅な改訂を執筆メーカーに依頼する費用があるため。徐々に内製化を取り進めており最終的には全て内製とする。更新研修費用が増えているが2日目の授業を新たに設けることにより会場費・講師費用等で増えている。よって当期事業収支差額はマイナスとなるが、3月のアンケート集計結果に基づいた予算故、今後募集結果によっては下方修正となる可能性もある。

こういう時期だけにこのままの計画で進めてよいのか、例えば一時的に今年度後半の会費を減らすなどの案が出て、会費徴収の是非、取り進め方などの論議を行い検討の結果、21年度予算月別会費の下期徴収は行わず、21年度予算の会費収入を半額にする。よって、議案を追加し予算案を修正し総会に提出する。なお、本案は会費改訂ではなく今回限りの緊急対応とする。

④役員改選による会長、副会長について

会長より、政策委員会より候補案として、会長 柴田寛、副会長 植田精一、富田薫氏、後藤正憲の各氏を推薦し、新役員より既に信任を得て

いる旨報告があった。来月の通常総会に諮り承認を得ることとなる。

⑤会長表彰の件

専務理事より、理事・監事・委員を10年以上お務めいただいた方が対象にて、6月10日総会にて会長表彰を行う。対象者は井内理事、田尻理事、下野監事、調査広報の森田委員。

[報告事項]

(1) 流通動態調査平成21年3月結果

専務理事より報告。調査1では、注目するところは3月の工作機械受注は85億で、日工会の3月の内需は77億であるがそれより多い、日工販としては3月は受注・売上共に増えている。3カ月に1度行っている調査2の見通し調査であるが、全般的に10%以上下降減少と見ている部分は依然として多いが前回に比べ減ってきている。10%以上上昇増加と見ているところが航空機関連に現れ始め、5%~10%強含み堅調と見る部分も増えている。

(2) 委員会報告

①選挙管理委員会：

専務理事報告。4/8開票当日は羽賀委員長・三橋監事に立ち会い頂いた。東部88.57% 中部100% 西部93.75%の投票結果で新理事が決まった。今回投票用紙を送付後、松茂工販(株)の退会申し出があったが、「投票用紙送付後退会があった場合の対応をどうするか」が次回の申し送り事項となる旨報告があった。

②中部地区委員会：

高田委員長報告。正副会員リース会員懇談会3/17。正副会員とリース賛助会員との情報交換で、テーマは「経済危機下における販売の現況と展望」、ここ1年は厳しい中でどうやっ

ていくかについて意見交換が行われた。正副会員17社25名、リース賛助会員6社9名、計32名。

③西部地区委員会：

赤澤委員長報告。会員懇談会3/17。現況報告について活発な意見交換に引き続き懇親会を実施。正会員13名、メーカー賛助会員12名、リース賛助会員9名、計34名。

④東部地区委員会：

柴田委員長報告。4/17実施。平成21年度事業計画について検討。委員4名。

(3) その他

①新しい公益法人制度について

専務理事より資料に基づき報告。

20年12月1日より施行され、「一般社団法人・一般財団法人」の法人設立は登記のみで、内閣府公益認定等委員会の監督下であり、「公益社団法人・公益財団法人」について民間有識者からなる合議制の機関の意見に基づき内閣総理大臣又は都道府県知事が認定。税については、「一般社団法人」の原則非課税グループと原則課税グループに分かれ、「原則非課税グループ」は収益事業所得に対して30%課税されるが、公益性のある事業所得は非課税。「原則課税グループ」は公益性のない事業なので原則課税(税制上は一般企業とそれほど変わらず株式会社は法人税約40%)。

次回定例理事会：

7月8日(水) 12:30~15:00
機械工具会館3階

甘回辛回



サンコー商事(株)
執行役員 関連事業本部GM

柴山 勉

今年のGWは高速道路ETC値下げ効果で全国いたるところ大渋滞となったようだ。混み合う道路をニュースで見ながら、全国の単身赴任諸氏の帰省の大変さを思った。

かく言う私も実は今春まで数年間東京に単身赴任をしていた。連休の帰省はしんどいが楽しみでもあり、また東京に戻る際には「明日から仕事だ!」と気合を入れて帰ったものである。

厚生省の統計によると単身赴任者は全国で40万とも50万とも言われており、それぞれに仕事のハードさは勿論、日常生活面でのご苦労も多かろうと思う。

私の単身生活を振り返って、特に重要に感じたことは健康管理と休日の過ごし方だ。休日に気持ちを切り替える事は精神衛生上大変重要なことである。できることならば休日には日頃の疲れを癒し、運動不足を解消し、ストレスも発散すべく自宅で好きなクラシック音楽に浸り、昼寝に読書と決め込みたいところだが、これがなかなか難しい。ひとりで部屋にこもっているのがなんとなく落ち着かないのである。また、昨今の若者男性は家事、育児も難なくこなす諸君も多いと聞かすが、日頃から家事など全く家人に任せきりの私。当然の成り行きで慣れない現実に振り回されるハメとなった。結構苦労をしたのが食事である。最初は頑張って自炊などしてみたのだが、やはり継続は難しい、早々に食事を考えることが苦痛となった。週末になると昼飯を求めて歩くことになる。まずは駅前商店街のこれかと思える店は制覇、果ては電車に乗り、隣町の商店街まで足を延ばすようになる。一見面倒なようだが意外とこれが苦痛にならず、いつのまにか週末の私の行動パターンになってしまった。嬉しいことに実によく歩く、運動不足も解消できまさに一石二鳥である。

東京は実に商店街が多い、どこも活気があるように思える、東京にいなながら懐かしい風景にであったような気がしたものだ。さらに人出の多いのにも驚いた。夏祭り、秋祭りには各商店街の神輿なども繰り出されて楽しい。赴任当初の不安とはうらはらに東京とは意外に住みよい街ではないかと、不自由なれども一人の生活にも慣れてきたところで私は名古屋に戻ることとなったのだが…車社会の名古屋に帰り、家事から解放されたらいっきに体重が増えてしまった。

単身生活での苦労をあげればきりが無い。単身生活での気楽さもまた捨てがたい。けれど一つだけ、単身赴任をしてみて得たものがある。

家人とメル友になったことだ。家庭をもって以来、とんと会話も少なくなっていた家族であったが、家事についての教えを請いつつお互いの生活を伝え合ううちに毎日携帯メールを楽しみにするようになっていた。

単身赴任の長い方々にはとりわけめずらしくもない話で恐縮だが、単身赴任もまた得がたい経験であると思う。

単身赴任の方々、家族と離れ、未曾有の大不況の昨今、仕事も厳しくストレスを溜め込みがちな毎日だが、自分がその地で必要とされているのだというプライドを持ち、仕事に、日々の生活に、楽しみを見つけ充実した日々をお送りいただきたいと願うばかりである。

統 計 資 料

工作機械・FA流通動態調査 1

統計1

単位百万円

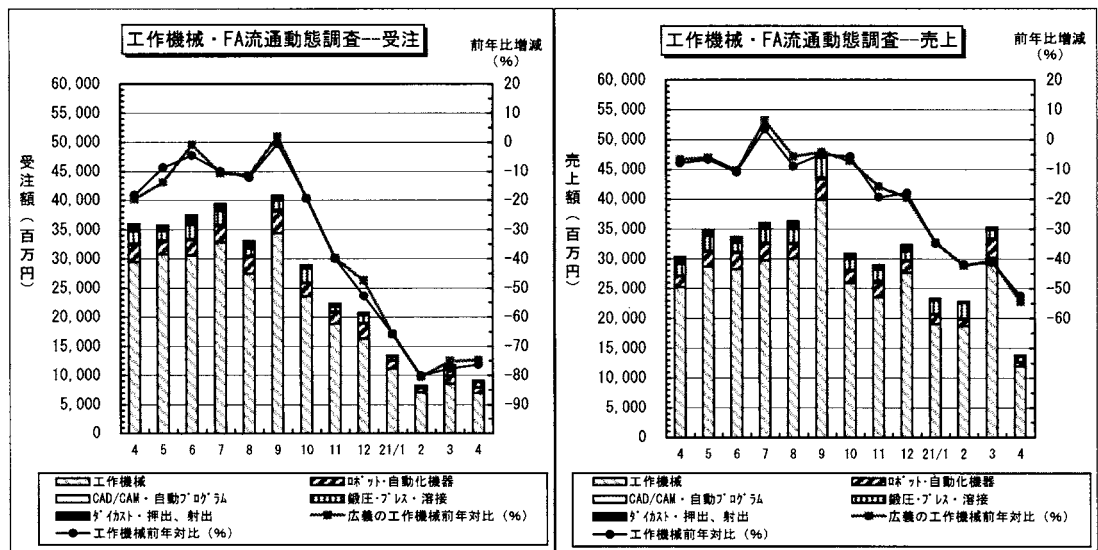
39社合計 調査月次		受 注					売 上				
		21/04	前月比	前年比	21/1-21/4	前年比	21/04	前月比	前年比	21/1-21/4	前年比
広義の 工作 機械	工作機械	6,976	-18.6%	-76.3%	33,728	-75.2%	12,023	-59.8%	-52.4%	79,670	-42.0%
	ロボット・自動化機器	932	-29.9%	-67.4%	4,330	-58.3%	624	-81.1%	-64.6%	6,621	-38.0%
	CAD/CAM・自動プログラム	74	-19.6%	-73.1%	349	-71.2%	83	-52.8%	-61.4%	487	-61.1%
	鍛圧・プレス・溶接	828	-44.6%	-60.0%	3,123	-70.4%	846	-43.9%	-55.7%	7,230	-25.2%
	ダイカスト・押出・射出	267	-20.3%	-79.7%	1,022	-85.3%	276	-39.1%	-78.4%	1,420	-76.5%
小計		9,077	-23.2%	-74.8%	42,552	-74.2%	13,852	-60.8%	-54.4%	95,428	-42.2%
工作機械以外の扱い商品		5,752	-44.5%	-46.6%	30,379	-48.4%	6,965	-41.9%	-44.3%	37,038	-34.3%
合計		14,829	-33.2%	-68.3%	72,930	-67.4%	20,817	-56.0%	-51.5%	132,560	-40.1%
従業員数		1,358	3.0%	2.8%							

統計2

単位百万円

30社合計 調査月次		受 注					売 上				
		21/04	前月比	前年比	21/1-21/4	前年比	21/04	前月比	前年比	21/1-21/4	前年比
内 訳	直販 (内リース)	6,535	-29.9%	-68.2%	32,170	-68.1%	8,422	-62.2%	-56.7%	59,283	-40.5%
	卸	378	-52.4%	-79.0%	2,287	-67.8%	704	-63.3%	-58.5%	4,728	-45.0%
	卸 輸入	1,617	71.3%	-82.1%	6,405	-83.6%	3,365	-52.3%	-61.3%	20,277	-51.7%
	卸 輸出 (内間接輸出)	648	-55.6%	-4.1%	2,547	-2.3%	489	-48.4%	184.3%	2,078	-3.3%
	卸 輸出 (内間接輸出)	764	-43.6%	-85.8%	4,733	-81.5%	5,607	142.5%	0.6%	14,133	-40.4%
従業員数		993	3.8%	4.1%							

注: 本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員71社中統計1に関しては39社、統計2に関しては30社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は42社である。



工作機械業種別受注額(2009年4月)

5月19日発表

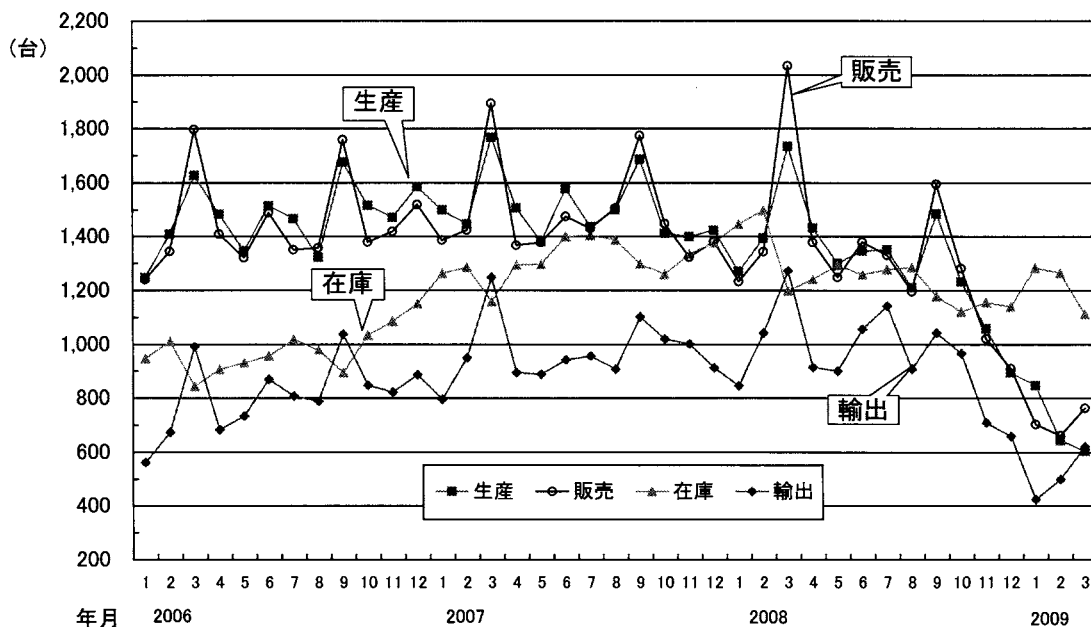
(単位:百万円、%)

需要業種	期間	2008年 累計	前年比	2008年 10~12月 累計	2009年 1~3月 累計	前期比	前年 同期比	2009年 1~4月累計	前年 同期比	4月分	前月比	前年 同月比
1. 鉄鋼・非鉄金属		12,991	102.6	2,335	459	19.7	13.5	452	9.8	-7	-	-
2. 金属製		19,218	89.0	3,246	1,404	43.3	25.0	1,904	25.6	500	146.2	27.4
3. 一般機械 (内金型)		248,456	77.8	33,905	12,951	38.2	16.8	17,517	17.3	4,566	111.5	19.1
4. 自動車 (内自動車部品)		39,059	68.6	5,502	1,907	34.7	15.9	3,252	20.7	1,345	397.9	36.2
5. 電気機械		161,336	75.7	15,915	2,895	18.2	5.2	5,815	8.2	2,920	490.8	18.3
6. 精密機械		82,139	89.1	7,809	461	5.9	1.7	874	2.5	413	-	5.1
5~6. 電気・精密計		33,058	71.3	6,166	2,180	35.4	21.2	2,571	20.5	391	69.4	17.4
7. 航空機・造船・運送用機械		24,735	78.3	2,556	1,307	51.1	15.9	1,972	17.9	665	184.2	23.9
3~7. 小計		57,793	74.2	8,722	3,487	40.0	18.8	4,543	19.3	1,056	114.3	21.0
8. その他製造業		30,798	103.4	5,540	1,438	26.0	16.7	3,631	30.9	2,193	296.0	69.8
9. 官公需・学校		498,383	77.9	64,082	20,771	32.4	13.0	31,506	15.2	10,735	168.9	22.4
10. その他需要部門		21,099	60.6	3,839	619	16.1	7.8	1,256	12.9	637	256.9	34.3
11. 商社・代理店		2,199	106.1	815	579	71.0	238.3	644	231.7	65	23.7	185.7
1~11. 内需合計		7,973	97.7	1,775	967	54.5	44.9	1,111	38.4	144	52.6	19.3
12. 外需		4,957	70.6	758	423	55.8	24.8	539	24.5	116	77.9	23.5
1~12. 受注累計		566,820	78.0	76,850	25,222	32.8	14.0	37,412	15.9	12,190	158.2	22.5
(内NC機)		734,327	85.0	93,253	35,171	37.7	16.6	48,165	16.8	12,994	98.2	17.6
		1,301,147	81.8	170,103	60,393	35.5	15.4	85,577	16.4	25,184	120.3	19.6
		1,254,661	82.0	163,034	56,716	34.8	15.0	80,705	16.1	23,989	121.1	19.5
販売額		1,472,029	96.7	297,916	228,187	76.6	53.8	267,220	51.1	39,033	42.4	39.4
(内NC機)		1,421,109	96.8	288,525	220,210	76.3	54.0	258,131	51.2	37,921	43.2	39.6
受注残高		574,383	75.7	574,383	407,075	70.9	56.4	393,027	52.2	393,027	96.5	52.2
(内NC機)		544,655	75.4	544,655	380,269	69.8	55.3	366,309	51.1	366,309	96.3	51.1

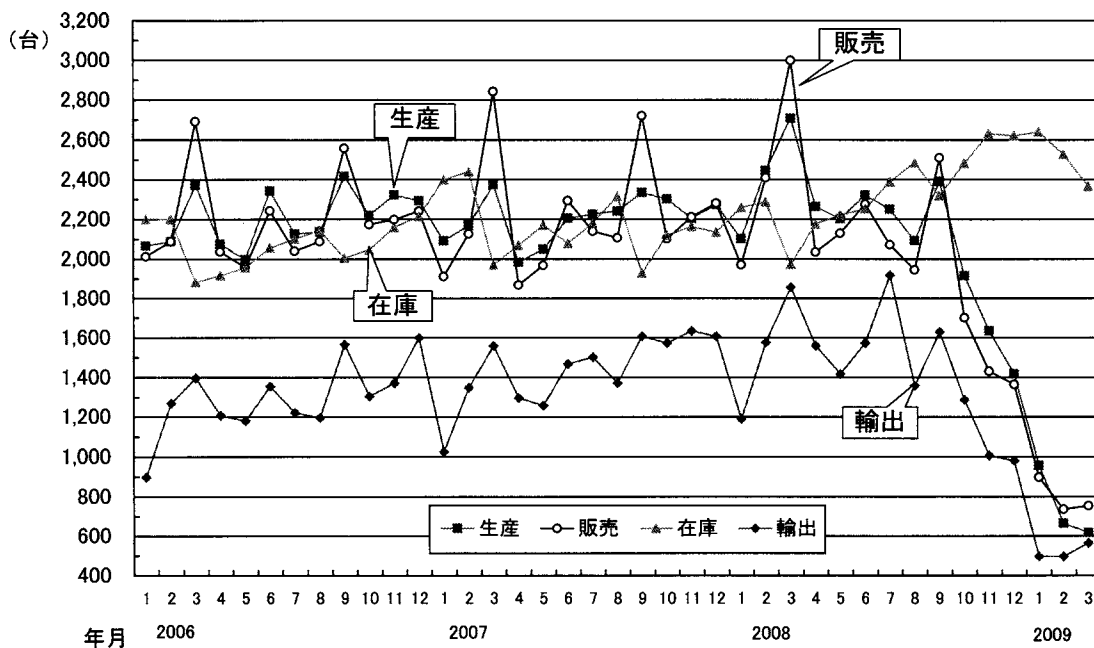
出所:(社)日本工作機械工業会

見てわかる 3年間の代表2機種の特長

マシニングセンタ動向



NC旋盤動向



出所：経済産業省「生産動態統計」、財務省「貿易統計」



日工販SE合格者 第164回発表



今回は5月の合格者33名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
09-17-2271	(株) 山 善	井上 剛志	09-18-2288	興銀リース(株)	堀田 直
09-17-2272	(株)北川鉄工所	後藤 高志	09-18-2289	日立キャピタル(株)	袈岩 道顕
09-18-2273	(株)兼松KGK	寺村 将志	09-18-2290	日立キャピタル(株)	会田 綱紀
09-18-2274	(株)兼松KGK	佐藤 純也	09-18-2291	日立キャピタル(株)	日出 啓昭
09-18-2275	(株)TEMCO	松永 仁	09-18-2292	日立キャピタル(株)	水本 一範
09-18-2276	トッキ・インダストリーズ(株)	金 鎮哲	09-18-2293	山田マシンツール(株)	平松 輝行
09-18-2277	住友商事マシネックス(株)	辻 佳孝	09-18-2294	山田マシンツール(株)	木村 裕一
09-18-2278	釜屋 (株)	渡辺 洋	09-18-2295	(株)松田精機	白井田裕司
09-18-2279	釜屋 (株)	菱田 章宏	09-18-2296	藤田商事(株)	菅谷 政幸
09-18-2280	(株) 東 陽	杉山 洋平	09-18-2297	三和工機(株)	中野 達也
09-18-2281	(株) 山 善	有住 リカ	09-18-2298	鋼 和 (株)	原口 絢二
09-18-2282	オークマ(株)	菊谷 浩司	09-18-2299	吉岡 幸(株)	兵 文夫
09-18-2283	オークマ(株)	春田 拓也	09-18-2300	(株) 森 野	藤田 泰匡
09-18-2284	(株)アマダワシノ	五十嵐 茂	09-18-2301	(株) 森 野	森口 繁
09-18-2285	(株)森精機製作所	六車 辰男	09-18-2302	ひろぎんリース(株)	清水 実
09-18-2286	(株)森精機製作所	松田 修治	09-18-2303	(株) 豊 幸	小山 典彦
09-18-2287	興銀リース(株)	小山 晴久			

会員・業界消息

関連団体…………… 日本鍛圧機械工業会 会長 春山紀泰(5月21日)
日本工作機械輸入協会 会長 千葉雄三(5月27日)

窓口変更…………… 中部地区正会員 岡谷機販(株) 取締役社長 小杉賢司
リース賛助会員 昭和リース(株) 機械設備営業グループ営業第一チームグループリーダー
北澤弘光

行事予定

中部地区正・副会員懇談会	6月16日(火)	(株)井高 会議室
西部地区正・副会員懇談会	6月30日(火)	りき六
第1回SE基礎講座	6月25～27日(木～土)	日本工業大学
第2回SE基礎講座	7月2～4日(木～土)	日本工業大学
政策委員会・定例理事会	7月8日(水)	機械工具会館

展示会

難加工技術展 2009	7月2～4日(木～土)	ポートメッセなごや
-------------	-------------	-----------

編集後記

- 6月号をお届けします。梅雨の季節となりましたが、雨と深緑の風景に似合う植物といえばアジサイだと思えます。アジサイは漢字で紫陽花、英名・学名がヒトランジアで「水の容器」という意味でアジサイ科アジサイ属の植物の総称ということですが、花びらに見えるのは萼(がく)で本来の花は中心部で小さく目立たないのですが、咲き始めの頃は白っぽく、次第に色が変わっていくのを楽しめます。
- 仕事上やむを得ず英語での読み、書き、話すということを長年経験しましたが、比較の問題として考えますと複雑な日本語に対しシンプルな英語と言わざるをえず、英語が世界共通語となっていることの原因が実感として理解出来ます。特に書くことに関しては、漢字一つひとつの持つ意味、そして助詞の使い方による意味・ニュアンスの違い、文体など奥が深いのですが、外国人が日本語の文章を書くというのはさぞかし大変なことではと思っていました。ところが日本語を母語としない二人の外国人がこの難しい日本語を駆使して小説を書き日本人作家と競った結果、文学賞を受賞したというのですから驚きです。昨年、中国人の楊・逸(ヤン・イー)さんが作家の登竜門のひとつである芥川賞を受賞しました。そしてイラン人の女性シリル・ネザマフィさんが先日文学界新人賞を受賞しました。興味深いのはこれら外国人作家が、夏目漱石や谷崎潤一郎から中上健次までの日本近現代文学の遺産を大事にしており読者にとっては「久しぶりにまっとうな小説を読んだ気がして懐かしかった」という感想がわいてきたそうです。近現代文学の名作が教科書から消えつつあるようですし、情報過多の現在では名作に触れる機会も減ってきましたが、もう一度名作を読み返してみると新鮮かも知れません。
- 日工会3月の受注確報は内需122億円、外需130億円と総額252億円となりましたが、内需については4カ月ぶりに100億円台に回復し、前月比がプラス58.2%と大幅な増加となり10カ月ぶりのプラスとなり受注レベルは依然として低いのですが底打ち感があり明るい兆しです。

「日工販ニュース」 Vol.21—No.6

平成21年6月15日発行

発行	日本工作機械販売協会 〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階 電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者	専務理事 宇佐美 浩
編集	日工販調査広報委員会 委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (五十音順)

平成21年6月1日現在

正会員(全71社)

【東部地区(35社)】

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠メカトロニクス(株)
 今井機械工業(株)
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株)カネコ・コーポレーション
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興
 (株) 三 機 商 会
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 双日マシナリー(株)
 太平興業(株)
 (株) 高 橋 機 械
 帝通エンヂニヤリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 (株) T E M C O
 トッキ・インダストリーズ(株)
 (株) ト ミ タ
 (株) N a i T O
 (株) ナ チ 常 盤
 日鋼商事(株)
 藤田総合機器(株)
 三井物産マシンテック(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤ マ モ リ
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

【中部地区(20社)】

石原商事(株)
 (株) 井 高
 岡谷機販(株)
 カト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコー商事(株)
 三立興産(株)

下野機械(株)
 (株) 大 成
 (株) 大 誠
 (株) 東 陽
 (株) 日 本 精 機 商 会
 浜松貿易(株)
 (株) 不 二
 山下機械(株)
 ワシノ商事(株)

【西部地区(16社)】

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 (株) お じ ま
 関西機械(株)
 京華産業(株)
 五誠機械産業(株)
 桜井機械(株)
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大幸産業(株)
 (株) 立 花 エ レ テ ッ ク
 西川産業(株)
 日本産商(株)
 マルカキカイ(株)
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山 善

賛助会員(全69社)

【製造業(53社)】

(株) ア マ ダ ワ シ ノ
 (株) エ グ ロ
 エヌティーツール(株)
 (株)MSTコーポレーション
 エンシュウ(株)
 オーエスジー(株)
 オークマ(株)
 大阪機工(株)
 (株)岡本工作機械製作所
 (株)神崎高級工機製作所
 (株)北川鉄工所
 キタムラ機械(株)
 キヤムタス(株)
 (株)グラフィックプロダクツ
 コマツNTC(株)
 黒田精工(株)
 (株) ジ ェ イ テ ク ト
 (株)シギヤ精機製作所
 新日本工機(株)
 住友電工ハードメタル(株)

(株) ソ デ ィ ッ ク
 大昭和精機(株)
 (株) 太 陽 工 機
 高松機械工業(株)
 (株) 滝 澤 鉄 工 所
 (株) ツ ガ ミ
 津田駒工業(株)
 (株) 東 京 精 密
 東芝機械マシナリー(株)
 東洋精機工業(株)
 (株)ナガセインテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株) 日 研 工 作 所
 日本ディエムジー(株)
 浜井産業(株)
 日立ツール(株)
 ファナック(株)
 富士機械製造(株)
 ブラザー工業(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株)牧野フライス製作所
 (株)松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミ ツ ト ヨ
 三菱重工業(株)
 三菱電機(株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株) 森 精 機 製 作 所
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)

【リース業(16社)】

NTTファイナンス(株)
 共友リース(株)
 近畿総合リース(株)
 興銀リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 GEフィナンシャルサービス(株)
 J A 三 井 リ ー ス (株)
 住信リース(株)
 東銀リース(株)
 東芝ファイナンス(株)
 日本機械リース販売(株)
 日立キャピタル(株)
 三井住友ファイナンス&リース(株)
 三菱電機クレジット(株)
 三菱UFJリース(株)